



発行：小網代ヨットクラブ  
〒238-0225  
神奈川県三浦市三崎町小網代1385-18  
Tel 080-9571-4663  
編集：広報委員会  
編集長：里吉美恵子

# 小網代通信

2018年 10月号 VOL-244

## 今月の内容

- |                        |                       |        |
|------------------------|-----------------------|--------|
| ・連絡事項                  | 編集委員                  | 1ページ   |
| ・「ハーバー作業 風景 9月22日～24日」 | 編集子                   | 2ページ   |
| ・「北海道一周クルージングのハイライト」   | 望月 常次(スピリット オブ トウキョウ) | 3～5ページ |

### 連絡事項(編集委員)

#### 1. < 10月1日からクラブハウス屋外のゴミ箱について変更のご案内 >

屋外ゴミの処理方法の変更は、9月26日のメールにて各艇オーナー及び代表に案内が送信されています。各艇メンバーに周知・ご理解をお願いいたします。

- ・屋外ゴミ箱・・・「ビン類」「缶」「ペットボトル(本体のみ)」の三種類だけとなりました。
- ・2階ゴミ箱・・・従来通り。

\*これまでも再三お願いをしてきましたが、屋外のゴミ箱では、未分別のゴミが入ったポリ袋の廃棄、生ゴミ箱へのポリ袋の混入、釣り針や釣り糸の混入などが後を絶たず、クラブが定めたゴミ処理のルールが徹底できませんでした。そのため抜本的なルール変更に踏み切りました。「自艇のゴミは原則自分で処理する(三浦市に迷惑をかけない)」ことを原則とし、「余計なゴミは持ち込まない」、「ルールに該当しないゴミは自宅に持ち帰る」ことになりましたのでご協力をお願いします。ホームページの会員専用ページに「ゴミの分別と捨て方について」が掲載されています。

#### 2. < ハーバー作業 9月22日・23日・24日に行われました >

前週の台風と変わって三連休は穏やかな作業日和となりました。作業は順調でしたが、予備日の3日目まで続きました。ハーバー管理整備委員会及びご協力いただきました各艇、お疲れ様でした。

#### 3. < 秋のクルージング 10月7日(日)～8日(月祝)は、中止となりました >

真鶴へのクルージングは、日本海を通過した台風の影響による強風が続いたため中止となりました。次々と発生する台風の多さと今までにない強風に驚かされます。



#### 4. < 11月3日(土)～4日(日) 第56回小網代カップレース開催予定 >

KYCがホスト役となります伝統のレースの公示がホームページ <http://koaziroyc.jp> [RACE] に案内されています。参加される艇及びコミティスタッフとしてご協力いただける方を募集いたします。問い合わせは、[koaziropcup@gmail.com](mailto:koaziropcup@gmail.com) までお願いいたします。



【小網代ヨットクラブウェブサイト情報】 URL <http://koaziroyc.jp>

【次回予定 総務委員会 10月22日(月) 18:30～21:00 駐健保会館4階会議室(JR田町駅より徒歩10分)】

2018. 10月号-1

## ハーバー作業 風景 2018年9月22日(土)～24日(月祝)

ハーバー管理整備委員会 三浦委員長の指示のもと、委員会メンバー及び協力して下さった有志メンバー及び漁協組合の方々が三連休をフルに使い作業していただきました。台風の到来も多くなり、アンカーチェックは艇の安全を維持するために重要な作業です。連日作業いただきました皆様に感謝いたします。まだまだ海底には、たくさんの金属の塊がありそうです。





## 北海道一周クルージングのハイライト

スピリット オブ トウキョウ 望月 常次

5月25日(金)から7月16日(月)までの2ヶ月弱のクルージングを実施した。今回のクルージングのテーマは、北海道で美味しい物をたべようだった。参加メンバーは、飛車角の伊藤、浦野、宮井、竹田、ナジャの平林、スピリット オブ トウキョウの佐藤、小林、佐々木、野上、望月とゲストの藤原(竹田の友人)の11名、全行程を楽しんだのは、伊藤、浦野、望月の3名。小網代を出てから太平洋岸を北上し6月7日(木)函館に入港するまで2週間。戻りにも約2週間かかっている。この間は、極力今まで入港していない港を選択したが、東日本大震災からの復興はまだまだだと感じた。



6月10日(日)函館を出てからの最初の寄港地は松前。白神岬を回る際には、津軽海峡の潮に悩まされた。津軽海峡では常に日本海側から太平洋側に潮が流れている。海流の状況はインターネット上に情報が出ており、比較的流程の遅い時間を狙ったつもりだったが、向かい潮2~3ノットに悩まされた。

11日(月)は、奥尻島を訪れ、早速うに丼をたべた。奥尻島を目指すあたりで、台風が太平洋側を過ぎていった。

12日(火)に瀬棚に着いた時から台風の影響は現れはじめた。瀬棚は、風が強いので日本で初めて風力発電のタワーが建った所だ。

13日(水)は8m/s程度の風で、午後になると風が強くなるとの予報だ。しかし、予報とは異なり途中から瀬棚名物の強い風にかわり艇速も4ノットまで落ちた。安全のために瀬棚に戻った。風速は、15m/sを超え一番激しいときには17m/sまで上がった。この日は、地元の美味しい物を目指してコミュニティバスで漁師のかーちゃんの店(斉藤さん家)に行った。様々な

定食をたのみ美味しさに満足をした。とくにホタテ貝がおいしかった。瀬棚に3日間停泊することになったが、メンバーの中には3日もこのお店に通った人もいた。ちなみにこのお店の商品は、ふるさと納税の返礼品にもなっている。

16日(土)は、積丹半島の付け根の神恵内をめざす。出港直後イルカの大群に遭遇する。複数の種類のイルカがそこら中にいて、船の舳先で遊んでくれた。

17日(日)は、小樽、積丹半島の先端の神威岬にはつきだした岩が出ており、我々はローソク岩と命名した。神威岬の次は積丹岬、その次は余市の沖を通過し、小樽に入港した。瀬棚で3日も停泊したので余市に寄るのは諦めた。小樽港マリーナハーバーには個人所有の大型のクルーズ船が入港していた。その大きさは驚くばかりだ。小樽では更に飛車角メンバー1名とゲスト1名が参加し7名体制となり、賑やかになった。夕食は、新たな参加メンバーのキムチ鍋だ。美味しかったが量が多すぎる。

18日(月)は、焼尻島の案もあったが増毛にした。理由は、毛の少ないメンバーが多いからだ(うそ)。10m/sまで風が強くな

った。うねりも大きくなり海岸から最も離れたところで1mを超えるレベルまで上がった。但しコースとしては追っ手のため濡れることなく機帆走することができた。

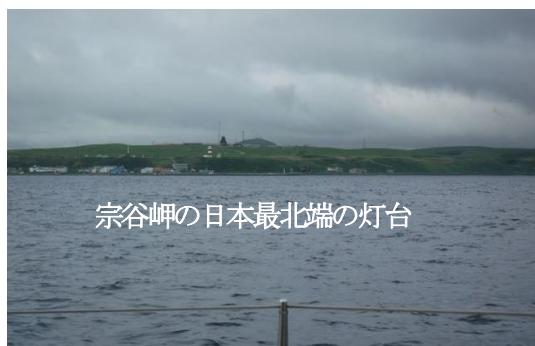


増毛に着いてからは、飛車角メンバーの狩猟本能が目覚め、ポンツーンフロートに着いている蠣を取り始めた。されにムール貝も取り夕食の食材とした。

19日(火)は、焼尻島より天売島の方がフレンドリーとの情報を聞き目的地を天売島に変更した。航海中は、快晴のため暖かく、徐々にビールが進む陽気となった。

20日(水)は、利尻島が目的地だ。天売島から利尻島と島伝いの航路となる。そのため1本航路となる。利尻島に近づくと利尻山の美しい姿がはっきりしてきた。利尻島に着き近所のお店で昼食を食べた。バフンウニのウニ丼やホッケ焼き魚定食だ。メンバーの5人はミシュラン推薦のラーメン屋をほしごした。この店は、午後2時で閉店とのことなので、昼食後すぐに向かう5人の健啖家にはびっくりだ。

21日(木)は、礼文島に寄りたかったがたばこの購入のためタッチアンドゴーで着艇しただけで稚内に向かった。雨との予報もあったが降られずに稚内の海の駅に着艇した。昼食は、近所の魚屋さんでとることにしたが、突然バケツをひっくり返したような雷雨が降り始めた。これが機帆走中でなくて良かった。ここでゲスト1名が離艇し6名体制になる。



宗谷岬の日本最北端の灯台

22日(金)の枝幸から陸上部隊1名が参加し再び7名体制になる。日本最北端の宗谷岬を回りオホーツク海に入る。枝幸までは距離はあるが海流の流れが追い潮(2ノット)なので快適に距離を延ばせた。枝幸では陸上部隊のメンバーが泊地を探してくれていたが、町から遠く、役場の人との交渉の結果、漁協前の泊地に停泊できた。北海道の人は親切だ。



ノースプレインファームの前で

23日(土)の目的地は、飛車角メンバー竹田先生の指導しているノースプレインファームのある興部だ。ヨットが興部に寄航するのは初めてとのこと、世界初めてヨットでの入港を達成した。港に着くとノースプレインファームの大黒さんが出迎えてくれた。その後すぐに、ノースプレインファームに移動しチーズと国産の白ワインで乾杯。昼食にハンバーグステーキ、ソーセージや野菜の盛り合わせとビールを頂戴した。会話も弾み、楽しい時間を過ごした。これらすべてをご接待して頂いた。竹田先生のこれまでのノースプレインファームへの支援のおかげだ。竹田先生に感謝!

24日(日)は、網走を目指す。網走ではメンバーが交代する予定だ。前日に興部に入港したために、網走までの距離は長く早朝に出港した。北海道は朝早くから明るくなるので4時25分には明るい海に出港した。網走には、13時に入港できた。安着祝いを兼ね、興部の漁師の方(大黒さんの友人)に頂いたニシンを小林が焼いた。さすがに船内では焼けずに外で焼いたが炎が上がり、船内も煙だらけになった。しかし、こんなに美味しいニシンを食べたのは初めてだ。関東では生のニシンを食べられない。翌日は、メンバーを待つために休日となった。



25日(月)は、再び歓迎会をかねた宴会。ニシンの酢漬けのなれ寿司と毛蟹で賑やかに開催した。

26日(火)は、宇登呂を目指す。宇登呂は知床半島の根っこに位置する町だ。網走出港後は、ホタテの養殖場の中を進むため、ブイの着いた旗をよける必要があった。途中オシンコシンの滝を目指したが、直前に大きな網があった。網をよけるためにあわててタックして回避をした。北海道の大半の定置網は“さけ”“ます”の漁獲シーズン以外は設置されていないが、常時設置されている網もあるので海図の網情報は無視できないことも分かった。





カムイワッカの滝



国後島

**27日(水)**は文吉湾へのコース。今回のクルージングの山場。山場の内、カムイワッカの滝は間近で見ることができた。ただし熊はいなかった、残念。次のルシャオロシはなるほど羅臼岳と知床岳の間の谷間を抜ける風が吹き下ろしていた。うわさでは海がへこむと言われていたが、風速は最大で15m/s程度。今日はこれを想定して2ポイントリーフでメインセールを上げてきたので、難なくクリアできた。文吉湾のひぐまは、熊よけの柵によって見るができなかった。これも残念。

**28日(木)**は、標津へのコース。荒れ狂う文吉湾からオホーツク海に乗り出した。湾を出てすぐには南西風が15m/s程度。今日の航海は大変だと肝に命じた。案の定、知床岬を回るころには風速が20m/sを超え始めた。2ポイントリーフにして良かった。その後、風は強くなったり弱くなったりしたが標津入港直前に10m/sを超える風が吹いた。このコースでは、国後島が本当に近くに見えて微妙な感じだ。微妙な理由は、国境が明記されていないことだ、日本は、国後島を日本領と主張しており、ロシアは自国の領土と主張しているためだ。海上保安庁は、参考ラインを国境のかわりに提示しているが…。

**29日(金)根室**へは、雨の中のセーリングとなった。予報通りである。寒い雨の中のセーリングは辛い。メンバー全員寒さに耐えながら機帆走となった。根室では、ヨットの面倒を見ている山崎さんに、この先の情報を教えて頂いた。根室半島をまわってからの泊地としては、落石その先は厚岸に泊まることにした。根室では回転寿司と、山崎さんに頂いた栗毛蟹を美味しく頂戴した。

**30日(土)落石**へは、ロシアと日本の最も近いところを通ることになる。瑤瑤瑠水道だ。出港後、風はなかったが、根室半島の先端に近づくとき霧が濃くなり先端の納沙布岬が全く見えなくなった。霧の中、GPSを頼りに納沙布岬を回る。少しでもコースを誤るとソ連に拿捕される。緊張の回航だ。岬を回り終わると、今度は浮き藻に悩ませられる。藻が絡まっても海に潜るのは厳禁だとも聞いている、理由はシャチがいるからだ。落石では陸上部隊の宮井さんが購入してきた花咲ガニを一人一匹食べた。美味しかった。

**7月1日(日)厚岸**へは、出港後霧の中の機帆走となった。その後、しばらく進と霧は薄くなり、快適なセーリングとなった。しかし、陸地は全く見えない太平洋ひとりぼっちの気分だ。厚岸湾に入ると霧が濃くなってくる。厚岸湾全体は養殖の海面となっている。そのため旗が多く、よけるのが大変だ。厚岸は、蠣が有名で吃水湖なので一年中蠣が食べられる。厚岸では焼蠣、蠣のオイスターソース炒め、牡蠣飯などを夕食として食べた。

**2日(月)釧路**へは、昨日に続き霧の中の機帆走となった。釧路では白テントの炉端焼き屋の前に繫留した。メンバー3名が離艇するのでここから先は4名体制となる。送別会として、ホタテのバター焼、蠣ご飯、タラバ蟹(最後の蟹の種類)と生牡蠣、ポテトサラダを味わった。次の台風が日本海に入っており、津軽海峡を強風が吹き抜けるようになることから、翌日にオールナイトで八戸に移動することにした。



日高山脈

**3日(火)八戸**へは、雨の中の出港となった。雨が全員の体力を奪う厳しい機帆走となった。しばらく進むと、雨はやみ、乾いた服に着替え、ホッカイロを活用して体力を温存した。しばらくは視界も良かったが、襟裳岬沖に近づく頃には濃霧に悩ませられた。襟裳岬沖を通り過ぎたあたりで霧も晴れ、日高山脈が頭をだした。我々の北海道1周クルージングを見送ってくれているようだ。夜の18時半頃、後ろから霧の塊が迫ってきた。悪女の深情けよろしくどんどん迫ってくる。このままでは飲み込まれると思ったが19時頃には津軽海峡からの西風が霧の悪女を押し返してくれた。やはり北海道には歓迎されていたようだ。感謝！